

News Release

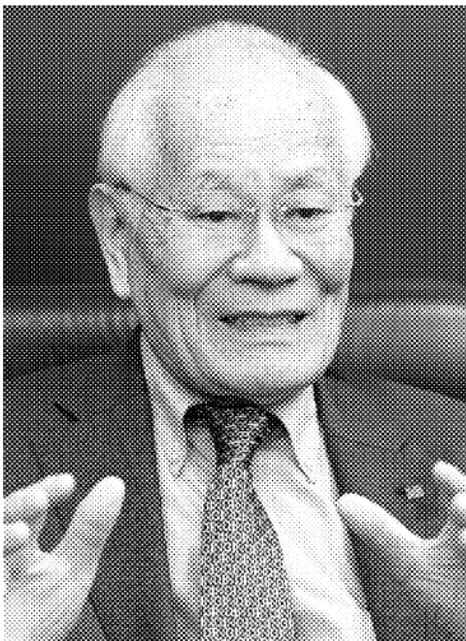
日刊工業新聞「書窓」に掲載されました

2024年3月25日付の日刊工業新聞の連載企画「書窓」に、当社代表取締役会長兼社長 榎本俊洋のインタビュー記事が掲載されました。

当社グループは長年培ってきた電気設備・電気通信設備工事の技術や経験を活かして再生可能エネルギー等のEPC事業に取り組むとともに、新たに立ち上げたCRE（不動産）事業を両輪とする「両利きの経営」により事業の多角化を図り、事業を通じたサステナブルな社会構築を目指しております。

今回のインタビューで榎本は、“企業成長の局面や事業環境の変化に直面し、これまで下してきた様々な経営判断が肯定され、さらには理論的に裏付けてくれるように感じる一冊”として、ビジネスパーソンからの支持を得てベストセラーになった『両利きの経営』（チャールズ・オリリー著）を紹介しています。

「書窓」は、経営者をはじめ各界で活躍する人が影響を受けた一冊をはじめ、本にまつわる出会いや思い出を紹介する連載企画です。



JESCO HD 会長兼社長 榎本 俊洋氏

今の私を支える『両利きの経営』



細やかな心配り
海外を飛び回る榎本氏
にとって機内は貴重な
ひととき。読書だけでな
く、社員一人ひとりに贈
る誕生日メッセージの作
成にも時間を充てる。米
（編集委員・神崎明子）

人生の節目ごとに、企
業経営の道標となる一冊
に出会ってきた。20代で
起業し、事業を軌道に乗
せることに奮闘していた
時代は松下幸之助氏に關
する作品に多く触れ、經
営理念やその根底にある
考えに深く共感した。そ
れから半世紀余り。今の
私を後押しする一冊はビ
ジネスパーソンからの支
持を得てベストセラーに
なったチャールズ・オリ
リー著『両利きの經
営』だ。
同書の読者の多くはこ
の中で提唱される経営理
論を自身の経営改革の原
動力として実践すること
を目指すだろう。しか
し、私の受け止めは、や
や異なる。企業成長の局
面や事業環境の変化に直
面し、これまでも下してき
た様々な経営判断が肯定
され、さらには理論的に裏
付けてくれるように感じる
一冊から。それこそが、
インバウンドの時代
には、既存事業を「深
化」し収益力や競争力を
より強固にする経営と、
新たな成長機会を「探
索」しビジネスとして確
立する経営の両方が求め
られ、これを「両利き」
と称する。私自身、こ
うしたアプローチを意識し
始めたのは売上高の10
0億円超えが射程に入っ
た頃。電気設備や通信設
備を中心に培ってきたエ
ンジニアリング力には自
信がある。海外市場でも
実績を積み重ねてきた。
だが、成長スピードを純
化させることなく収益力
を高め、社員や株主に還
元するには、産業構造が
異なる事業の確立が必要
と痛感した。具現化した
のが不動産事業だ。ノウ
ハウ蓄積の過程では苦い
経験もあったが、それも
生きている。
組織文化に関する考察
も新鮮だった。国内外問
わず企業のM&A（合併
・買収）を積極的に進め
ており、相乗効果の発揮
が課題の一つだからだ。
日本企業の中には文化を
戦略的につくり込んでお
らず、これを成長力に転
嫁する組織能力の変容に
は経営トップが深く関与
するべきとの指摘は示唆
に富む。
家族的な雰囲気や大切に
にする当社の長き企業風
土は守りつつ、さらなる
変革に挑みたい。

経営判断に勇氣をもらう